

**KUWV****Kanazawa University  
Wandervogel-OB****白山・南竜 PW  
2018 年夏****俺たちや 10年間 通い続けたよ 霊峰白山に**

第 10 回 白山・南竜 PW 2018 年 8 月 2 日 中宮温泉 くろゆり荘

**酔っ払いが決めた企画**

白山南竜 PW のきっかけは、2008 年 9 月 14 日 KUWV・OB 総会の二次会で、山村さんが白山南竜ケビン集合を提案したことだった。

酔っ払い集団であったから、簡単に勢いよく満場一致で決定。

**10 年間継続のエンジン役は**

この 10 年間の PW のリード役は、最

初の 5 年間は山村幹事長、その後の 4 年間は伊藤幹事長、そして今年は山村・伊藤両氏の共同幹事長だ。

**俺たちは大いに楽しめた**

白山南竜 PW に集まったのは、『紅顔の美少年』の面影も感じられない高齢者軍団。『登れば仲間に会える』との一念で、風雨にも酷暑にも負けず白山へ。楽しく充実の 10 年だった。

(前列左から)

藤井 信晴(8 期)

村田 泰恵(7 期)

合 津 尚(6 期)

高水間淑子(8 期)

山村 嘉一(8 期)

鍋 島 武(9 期)

伊豫 欣二(8 期)

(二列目左から)

篠島 益夫(8 期)

野村 孝弘(8 期)

山中 重夫(9 期)

黒崎 史平(8 期)

穴田 昭一(8 期)

伊藤 俊成(9 期)

白 井 勇(9 期)

(三列目)

保 田 敦(9 期)

**2018 年(第 10 回) 行動概要 (今年の集中地は 2 か所)**

	南竜集中グループ	中宮温泉集中グループ
7 月 31 日	別当出合から砂防新道経由で南竜へ 6 名	白山麓民族資料館等見学 中宮温泉に集合 7 名
8 月 1 日	①展望コースから御前峰へ 2 名 ②エコーラインで室堂へ 2 名 ③別当出合へ直行 2 名 6 名全員が下山し、中宮温泉に合流	・蛇谷ハイキング 7 名 姥が滝 ふくべの大滝など ・新たな参加者 2 名 ・南竜からの下山者 6 名 合計 15 名
2 日	中宮温泉 くろゆり荘にて解散	



## 第10回PWの集中地は 南竜と中宮の2ヶ所

第9回までの形式では、各人がどこから登っても構わないが、白山・南竜に集まってくる方式(白山・南竜集中)を採用していた。

第10回の今年は、①白山・南竜と②中宮温泉の2ヶ所に集中地を設定。

山村リーダーによれば、『各人の年齢や体調などを配慮して2ヶ所に設

定すれば、一人でも多くの仲間が参加しやすくなるのでは』…というネライとのこと。

ネライは大当たり。白山・南竜組は6名。南竜には寄らず中宮温泉にのみの集中者は9名。2泊目は南竜組も中宮温泉に集まり、総勢15名の大盛り上がりのワングル談義だ。

## 自称『精鋭組』の南竜グループ 砂防新道を往く

**南竜組 初日** 3つのグループに分かれて、別当出合を出発し、砂防新道を経て、南竜山荘に向かう。

第1グループ 7時30分発 伊豫の単独行。

出発も早ければ、足も速い。南竜到着後に、後続を迎えに甚之助小屋まで下りてきた。現役並みの足腰。

第2グループ 8時30分発 白井、伊藤、鍋島の9期グループ

『ゆっくりが、モットー』。でも後続には甚之助までには追いつかれたくない。年齢相応のプライドだ。

第3グループ 9時30分発 合津、山中の二人は東京から同行。それ故チームワーク抜群で快調。甚之助で、9期組に追いついた。健脚だね。



### 『精鋭組』とはいえ高齢者 バテたよ

写真上:8時30分 別当出合

写真下:13時50分 南竜道分岐

別当出合での写真(上)では、『久しぶりの山だが、歩けるかな』とちよっぴり不安感も。

『とにかくゆっくり歩こう』

『休憩も頻繁に』と、山の初心者以上に慎重な足取りだ。

それでも5時間も歩けば疲労感もでて、当然ですね(下の写真)。

あと30分歩けば、南竜山荘に到着だ。何とかなるだろう。



### My Wandervogel

現在78歳。80歳を過ぎてもひたすら山歩きを続けたい。またフルマソンと田舎での生活も維持したい。

6期 合津 尚



### My Wandervogel

80歳まで山の花を楽しむみたい。

8期 伊豫欣二



### My Wandervogel

『俺、この稜線が好きなんだ。北岳と間ノ岳を結ぶ稜線。実に爽快な気分になるよ。今秋で80歳になるが、再び来られて幸せ者だ(2024年夏)』…という紀行文を6年後に書きたい。

9期 鍋島武





老体に鞭打ち、花に励まされて、一歩一歩上へ。「お！ きれいだ」と、パチリと一枚。

「その花、上にいっぱい咲いているよ」と言って横を通りすぎる中年野郎。『道あけろ』と言いたげ…馬鹿野郎！

花で元気づき、お前の一言でがっかり。山登りはつらいね。

今年もやってきましたよ 白山・南竜に。 来年は……



第 10 回 白山・南竜 PW 2018 年 7 月 31 日 南竜山荘

例年のように、白山・南竜に集まってきたのは、上の 6 名だ。自ら『精鋭組』を名乗るが、平均 74 歳かな 75 歳かな、まさにオジン達だ。

別当出合から砂防新道経由で、南竜山荘に到着したときは、『ああ 疲れたな』『よく歩けたな』というのが本音のようだ。

南竜集中者 6 名はちょっと少ないね。2012 年夏(第 4 回目)では 18 名だったが。高齢化で、あきらめざるを得なかった方もいらっしゃるからでしょうね。

#### 白井さんの声

山登りを始めて 60 年。今回の砂防新道登りで初めてバテました。それでも、南竜へ行けたのは一緒に登ってくれた俊成さんと鍋島さんの気配りのおかげでした。そして、翌日『白井を一人で下山させるわけには行かない』と、御前峰を諦めて同行してくれた山中さんにも感謝です。

9 期 白井 勇

脚の声…『歩き通したのは俺(脚)だよ。脚に感謝してよ。同期の 9 期の奴らには感謝不要だよ。彼らもバテていたよ。急に俺(脚)を酷使するのではなく、平素からもう少し使っちゃうだ。ゴルフ場ではなく、山で使っちゃうだ。』

#### My Wandervogel

卒業後、白山の御前峰登頂は一回しかない。体調回復に心がけて、もう一度御前峰登頂を果たしたい。

9 期 保田敦



#### My Wandervogel

鈴鹿セブンマウンテンへの回帰

今回の南竜PWで体力の衰えを思い知らされました。白山は諦めざるを得ません。今後は、中学・高校時代のホームグラウンド・故郷鈴鹿山系の山道を気ままに歩きたいと思っています。

9 期 白井勇



山で怖いのは雷かな。いや爆発かな。

白山にも、こんな新しい標識が建てられていたよ。



## 各々 自分好みのワンデリングで白山を満喫

南竜組 2 日目 昨夜決めたワンデリングを予定通り実行。

3 グループとも、今晚は中宮組に合流するために下山。

- ① 合津・鍋島…展望コースのご来光を楽しみ、御前峰に登る
- ② 伊豫・伊藤…エコーライン経由で室堂へ
- ③ 白井・山中…現在の体調を考慮し立ち寄りなしで、別当出合へ。

### 展望コース展望台で ご来光 最高だ



ご来光を仰ぎたいために、二人は午前三時起床。南竜からの急登をヘッドランプ頼りに、夜明け前から汗をかく。

太陽って偉いね。我ら二人の到着を待っていたようだ。我らが展望台に到着するや否や、すぐに顔を出したよ。お天道様はいつも見ているよ。



### お花畑とハイマツ帯を縫って室堂へ



### 室堂で朝食

室堂に 6 時 40 分着。南竜山荘で調達した朝弁当と合津さんが準備してくれた味噌汁で、朝食だ。

新装なった白山奥宮祈禱殿で安全祈願をして、御前峰へ。

### My Wandervogel

山はバスかケーブルカーで上のほうまで行けて少し歩けば頂上、というのを探して、おくさんと。

もう 1 つは、山村さんのお世話に甘えて、金沢でたまに飲むこと。

8 期 穴田昭一



### My Wandervogel

とりあえず新しい登山靴の調達を決断すること。そして、敢えて目的も目標も定めぬ気ままな心で山を想い、人を想うこと。

9 期 伊藤俊成



先輩を追いかけて

54 年前の冬、合津リーダーのもと、大門山に行った。4 年生 3 名、2 年生 2 名、1 年生小生 1 名。45kg の重い荷物を背負い、深い雪のラッセルで、鍛えていただいた。

本日、合津さんに同行させていただき、二人で白山山頂ワンデリングができて、うれしい。依然として強い気持の先輩を見ました。

気の弱い小生。今後も先輩の背中を追いかけて、山登りを継続だ。

9 期 鍋島武



## 御前峰頂上



頂上では、眺望を楽しみ、腹ごしらえをし、奥宮で神頼み。計画達成で、何か満たされた気分で最高だ。

もしかして、今回が生涯最後の御前峰かも…。ちょっと感傷的に。去りがたい気分だ。

## 南竜の4名も行動開始

南竜山荘を出発した 4 名は南竜道のエコーライン入り口で二手に分かれる。

白井さん山中さんはそのまま別当出合を目指して下山、一足先に中宮に集中だ。

一方の伊豫さん伊藤さんのグループはエコーライン経由で室堂に向かった。

## 室堂及び南竜道分岐では 想定外の KUWV-OB 交流会

伊豫・伊藤両氏が目的地の室堂に着いたが、そこには、想定外のうれしい出来事が。

15 期の間所ご夫妻が室堂に来ていたのだ。伊豫さんの行動を予知して、出会えるだろうと思ったとのこと。お二人にとっては想定



内であるが、我らにとっては想定外。

御前峰から降りてきた合津・鍋島組が加わり、KUWVOB 交流会だ。仲良しの良いご夫婦だね。



2018 年 8 月 1 日 南竜道分岐 (左から) 間所ご夫妻 奥名さん + PW 参加者 4 名

更に驚いたことに、南竜道分岐まで下りてくると、15 期奥名さんにも待っていただいた。疲れ切っていた我ら PW 参加の 4 名も、疲れも忘れる時間を持たせていただいて、感謝です。奥名さんの奥様には 5 年前の PW で、花の解説をして

いただいた縁もあります。これまたいい夫婦です。

間所ご夫妻、奥名さんの 3 名から、『先輩たち、まだまだ若い。元気に歩け！』との無言の激励叱咤を受けて、我ら 4 名はオジサンらしく慎重に別当出合に向かった。無事に下山できましたよ。



## 山のピークだけがワングルじゃない 活動の幅を広げた中宮集中グループ

中宮組 初日 白山麓の白峰のワンデリング。

多くの白山登山者はこの白峰を通るだろう。ただそのうちの何%の登山者が白峰に立ち寄るのだろうか。おそらく数少ないであろう。我ら KUWVOB も立ち寄らず、通過するケースのほうが多い。

そこで、今回の中宮集中グループがこの白峰の良さ・魅力を探訪。

## 白峰はすごい。江戸時代の文化・伝統が生きている



## 『国選定重要伝統的建造物群保存地区』



白峰の中心部そのものが、『国選定重要伝統的建造物群保存地区』に選定されており、『白山ろく民族資料館』にも江戸時代の文化・伝統が保存されている。白山登山者はぜひ一度立ち寄ってほしい地域だ



山岸家 大庄屋



白山下山仏



織田家



## My Wandervogel

南竜 PW は 2009 年から 2013 年の 5 回参加。その後は変形性関節症のため欠席。

マイワングルは一人旅。九州 7 県へは 9 回。下北半島と津軽半島はレンタカーで一周。文化庁の重要伝統的建造物群保存地区を今年中に 100 箇所達成予定。今後も一人旅を続ける。

8 期 藤井信晴



## My Wandervogel

もう六甲山すら登坂がつかなくなったが、野山歩きはまだ続けられる。兵庫植物同好会の会員であり、自然を楽しんでいる。兵庫県立博物館の客員研究員として、藪漕ぎをいとわず、ワングル時代にベトコンと言われたスタイルを維持しつつ、里地や里山の植物を訪ね歩こうと思っている。

8 期 黒崎史平





## 中宮グループ初日の晩は 8期同期会だ



初日に中宮温泉に集中してきたのは、この7名。偶然にも全員が8期の紳士淑女の面々だ。久しぶりの同期の会話も盛り上がったことでしょう。

(懇親の場に同席していない記録係が、想像で記録した内容は次の通り)

『やあやあ！元気か』『おお元気だぞ』『最近膝を痛めてね、南竜集中はやめたよ』

『山は高みだけを求めちゃだめよ』『高齢ワンダーには山のピーク以外の活動の場が・・・』

『明日は蛇谷あたりを歩こうよ』

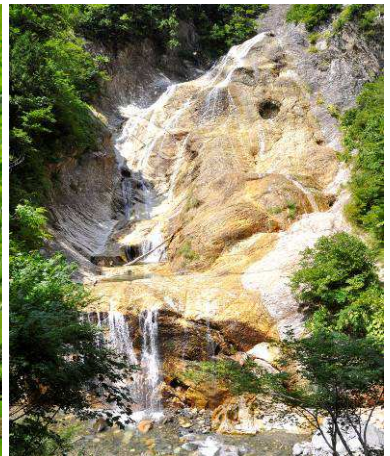
『先日、女房を上高地に案内したよ。また立山のみくりが池もいいね』

『今日は、何にもできない、何にもやらない、口だけの9期がいない。静かだね』

『9期の奴らの指導のために、8期から伊豫君一人、南竜に行かせたよ』『孫はかわいいね』

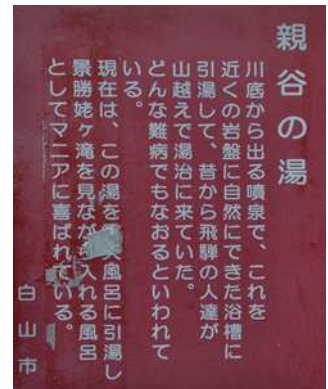
酷暑の夏の夜、冷えたお酒がいいね。おいしいお酒で、夜遅くまで語ったことでしょう。

## 中宮グループ2日目 ドライブ&ワンデリング



中宮温泉から白山白川郷ホワイトロード(旧白山スーパー林道)を車で走る。この渓谷はワンデリングにも最適な場所満載。

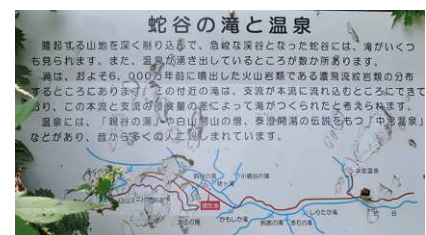
俺たちのこれからのワンデリングはこの形態がピタリかも。





**姥ヶ滝** うばがたき 日本の滝百選

姥ヶ滝は、落差76メートルの滝で山の中腹より崖壁を数百条の細かい流れすべりに落ちる。この様子はまるで老婆が白髪を振り乱したように見えることから名前が付いたとされる。滝の下まで遊歩道が整備され、霧天沼袋のつかりながは滝を、楽しめる秘湯の湯として静かなブームを呼んでいる。



## お二人が新たに中宮組に合流

二日目に、村田さん、保田さんが中宮組に新たに合流。画像・映像を得意分野とするお二人だ。

村田さんは、一日遊び疲れたワンダラーに、お茶のお点前でおもてなし。保田さんはいつもの PW のように、常時ビデオを抱えて、ワンダラーの生態をとらえる。

この茶会をはじめ、その生態が、保田さんの映像によって公開されますので楽しみに。



## 全員集合 食べる・飲む・語る 10年の白山南竜PWのフィナーレ

2 泊目は、全員 15 名が中宮温泉くろゆり荘に集合。山小屋ではなく温泉宿で、浴衣姿で、リラックス。

半世紀以上のつきあいの仲間うちだ。遠慮もなく、食・飲・語で、口は大忙し。フィナーレの夜はいつでも賑やかに盛り上がっていた。



### My Wandervogel

山麓の温泉に入るだけでなく、高原歩きを目指すよ。そのために体調管理も頑張るよ。

8 期 山村嘉一



### My Wandervogel

『元気だから山に登るのではない。山に登るから元気になる』

NHK 深夜便

2017 年 5 月号

三浦雄一郎



(左)乾靖さん  
くろゆり荘のご主人。ナイスガイ。  
穴田さんの息子さんの友人。多方面に活躍中。  
応援してあげてください。  
TEL  
076-256-7955





## 白山南竜PW 振り返れば 素敵な思い出が次々と!

楽しかった南竜 PW の小屋での思い出が、次々と頭に浮かびます。南竜酒場のおしながきです。

- ・一番の楽しみは、近江町市場直送の「ドジョウの蒲焼」。大好きでした。予約でしか手に入らないらしい。
- ・強烈に視覚に残っているのはピンク色の地酒『白山フウロ』。雨でびしょ濡れになりながら花を探し、お酒に浮かべ。最高の贅沢。
- ・バテバテでゴールした南竜で迎えてくれた『赤福餅』。口の中にホイと、とたん疲れが吹き飛びました。程よい甘さがいいね。
- ・奥さまとの登山で良しということで披露された『チーズボンデュ』。スイスの山小屋に居るような気分でした。美味しかった～。
- ・山から帰ってきたとき待っていたのは『ソーメン』。東北産茗荷、ねぎの薬味を添えて。ザルは次年度の宿題でしたね。
- ・アルコールは何でもありでした。お茶会。自家農園のキュウリ、トマト ビタミン C もしっかりとてお肌綺麗???
- ・デザートは『スイカ』『小松産ブドウ』。愛を感じますね。
- ・朝は『コーヒーのかおり』で目覚め、二日酔いもどこへやら。爽やかにおはよう～でした。
- ・最初は神々しく近寄りがたかった先輩も、最後の写



真では隣に。(1頁写真参照)

忘れられないのは、PW 特別参加の笑顔の素敵な登山家谷口けいさん、8 期同期の柳川徹さん。ご冥福をお祈りいたします。

8 期 高水間淑子

## My Wandervogel

## 登山靴をお蔵入りさせてもワングルは続けるよ

高齢ワンダラーが否応なく決断を迫られる課題は『いつ登山靴をお蔵入りさせるか』PW 最終日に、山村リーダーから『白山南竜PW は今回限りで終了』が宣言された。『白山南竜に集まろう』という統一行動は、年齢からいって、今後は難しい。これからは各人各様の自分流のワングル活動に進むことになる。

幸いにワングル活動は『登山靴をお蔵入り』させたとしても、その活動は終わるわけではない。自分流のワングル活動『My Wandervogel』が始まるのだ。

今回の PW 参加者が語る『My Wandervogel』を各ページに掲載した。

## ますますお元気に活躍のワンダラー

アメリカ旅行のため出遅れてしまった村田です。

旅行前の慌たしさで何のリポートも出来ませんでしたが、駆け込みでメールを送らせていただきます。

8 月 2 日解散後、伊藤、保田、山中、村田の4名は先ずホワイトロードに入り、「ふくべの大滝」、「白山展望台」でいつも眺める白山を裏側から眺めリターン、一路金沢に向かいました。

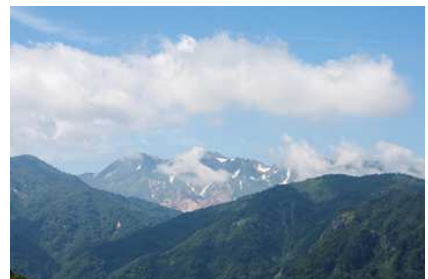
道の駅「瀬名」に立ち寄った後、手取峡谷の「綿ヶ滝」へ。駐車場から120段の階段を恐々降りるとそこは別天地、綿を切ったような流れの「綿ヶ滝」が優しくも轟音を響かせて手取川の岸壁を流れ落ち、一陣の風とともに頬を撫でる水しぶきの心地よさ、溪谷美を堪能した後の登りの過酷なこと、せっかく引いた汗がまた噴出す始末。鶴来の「そば処さかい」で白山そばを賞味し、伊藤、保田両名と別れた村田は山中氏を金沢駅まで無事送り届け帰宅。

前日の茶会も滞りなく終了。全国茶人の垂涎の菓子処「吉はし」の幻の上生菓子「苔みどり」と米沢緑翠園の「幸の白」で一服、暑さを吹き飛ばして頂きました。されど殆どの人にこの菓子の貴重性には気づいて頂けなかったようです。

5日後には暑い日本を脱出してアメリカはワシントン州のアナコースト、シアトルで涼しい1週間を満喫して私のこの暑い夏は終わりそうです。

あ、もう一つ、11月1日～8日、「東京都美術館」で「第92回国展受賞作家展」に出品していますので、近郊の方は散歩がてら上野の森へ足をお運び頂ければ幸いです。

7 期 村田泰恵



この殿方は昼の蝶にも好かれてるよ。もうちょっと若い頃は、夜の蝶に追っかけられたのだろうな。  
(8月2日砂防新道にて)



白山南竜 PW をお手伝いして

KUWVOB 南竜集中 PW 第十回で終了！

9期 伊藤 俊成

2018.08.19 山村 嘉一

7年連続7回目の白山南竜PWの参加、どの回も鮮明な記憶を残し、終わりを告げた。

思えば、退職辞令をもらったその足で神田神保町「石井スポーツ」に赴き、登山靴とザックを購入するきっかけを作ってくれたのは、この白山南竜 PW 計画の存在であった。

あれから足掛け7年、PW 最後の今年、砂防新道の途中で登山靴のビブラム底が剥離してきたことは、店員が言った登山靴の寿命とくしくも一致することとなった。これも神の定めし運命なのだろうか？

私個人にとって私をここまで頑張らせた要因は、山村先輩のお手伝い役を、9期千葉組の代表に担ぎ上げられたことに尽きると思っている。この役目がなければ、トレーニングを怠り、私の山登りも挫折していたかもしれないと考えると、感謝の念が湧いてくる。

いつまでたっても超すことのできない先輩達、時折り顔を見せる後輩達、そして口さがない先輩から『何もしない9期』と言われつつ取って甘んじてきた同期の面々、ご協力いただきありがとうございました。ただただ感謝の気持ちで一杯です。

迎えてくれた白山の花々(名前はどうも忘れませんが・・・)、アサギマダラ、オコジョ、そして満天の星空に豪雨、ソーメンにキュウリ、白峰民宿のおばさん、まだまだいっぱいあります。

大切な思い出をありがとうございました。

以上

今を去ること10年前の2008年9月14日、金沢大学ワンダーフォーゲル部創立五十周年記念総会懇親会の二次会で話が盛り上って実現した『白山の南竜に集まろうや』というこのパーワンも、十回目を迎え、これにて終了とすることとなりました。五回目の時にそれまでお世話してきた山村が『五回も続けてきたのでこれで止めたい』と言ったところ、『何とかして十回まで続けてその十回目を山村が締めるという条件で、それまでは9期千葉組がお世話をする』ということになり、9期千葉組を代表して伊藤俊成さんのお世話のお陰で途切れることなく、幾多の思い出を残しながら最後の十回まで続けることができました。全十回皆出席の方はもちろん、一回でも参加された方、すべての皆様のご協力に心より感謝申し上げます。お陰様でKUWVOB としてのワンダーフォーゲルらしい活動が続けられてとてもうれしい気持ちです。

ただ、個人的には最後の回の南竜ケビンに参加できなかったことが誠に残念至極です。それも日頃の自分の健康管理、体力管理のまずさと努力不足によるものかと思うとみじめな気持ちになってしまいます。

そもそも虚弱児童で小学校入学を2回やっつの学校生活のスタートから、どうにか人並みの健康体となり、ワンダーフォーゲルに巡り合っ自分としては思った以上の活動ができたと思い、運動神経は鈍いけど、歩いたり登ったりするだけなら一生続けることができると思い込んでいました。歳を意識しながら、昨年9月中旬には燕岳、同じく月末には、迎えた75歳の元気を確かめるために白山御前峰に、ヘロヘロになりながらも登ることができました。ところが、今年の正月に発症した変形性腰椎症、脊柱管狭窄症による坐骨神経痛が完治せず、5月25日の上高地、7月26日の立山室堂の散策は何とか歩けたものの、南竜まではとても行けない状態となってしまいました。(お聞き苦しい愚痴話になって申し訳ないです。)

今後は少しでも良くなるように頑張るつもりです。山麓の温泉に浸かり、昔を思い出して悔しい思いを巡らせだけでなく、せめて高原歩きができるようにしたいと思っています。

KUWVOB の皆様！今の健康も体力もアツという間に失うリスクが日常生活の中にあるかもしれません。どうか山村の轍を踏むことの無きよう、くれぐれもご留意されますように！！

以上

幹事役あってこそそのパーワンです。10 年間にわたり、お世話いただき、心から感謝申し上げます

参加者一同

編集後記：写真、文書投稿、My Wandervogel の表明など皆様のご協力、ありがとうございます。  
その立派な資料を上手に活用できずご容赦を。  
(記録担当 鍋島武 nabeshima2828@nifty.com)



伊藤共同幹事長 合津名誉幹事長 山村共同幹事長